

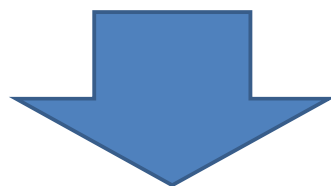
乳幼児の安全対策委員会

発表日 平成29年11月28日(火)
発表者 乳幼児の安全対策委員会
委員長 山口 みどり
委員 石田 数美

1

乳幼児の安全対策の必要性

外傷発生動向調査では4歳以下の
外傷が多い



2011年

乳幼児の安全対策委員会の設置

2

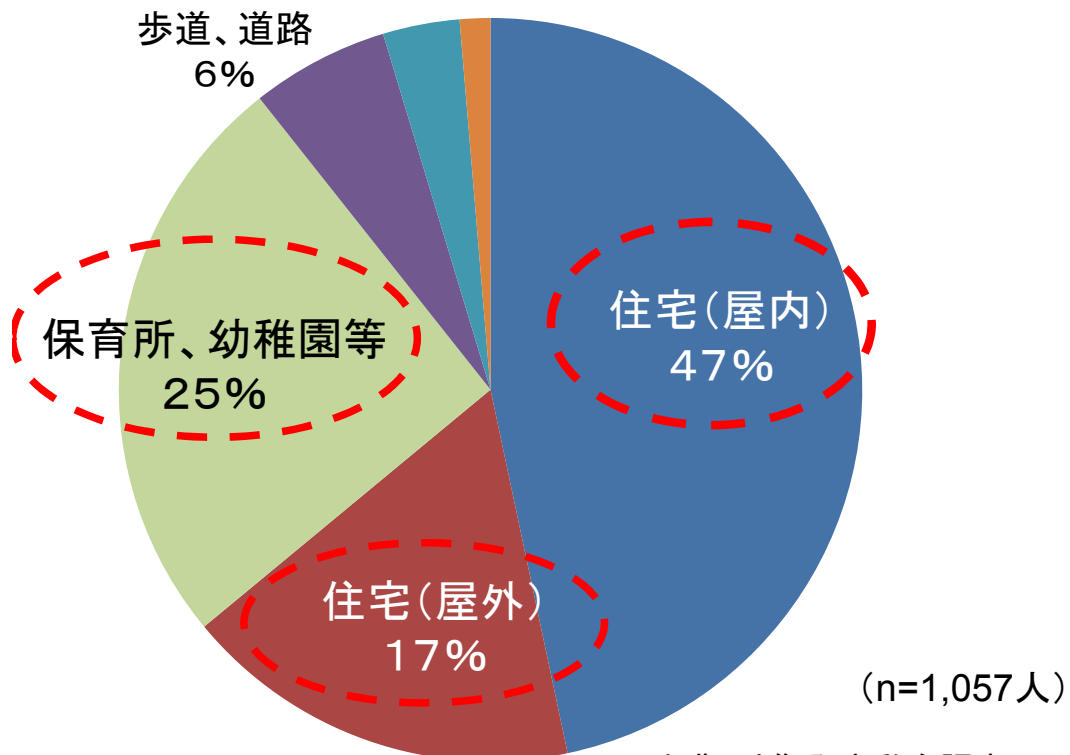
乳幼児の安全対策委員会構成

| | | 所属団体 | 役職 |
|-------|----|------------------------|------|
| 市民団体等 | 1 | 亀岡市民生・児童委員協議会主任児童委員連絡会 | 委員長 |
| | 2 | NPO法人亀岡子育てネットワーク 副理事長 | |
| 関係機関等 | 3 | 京都第一赤十字病院 救急科 副部長 | |
| | 4 | 亀岡市子育て支援センター センター長 | |
| | 5 | 亀岡市立亀岡幼稚園 園長 | |
| | 6 | 亀岡市立東部保育所 所長 | |
| | 7 | 亀岡市立保津保育所 主幹養護師 | |
| 行政関係 | 8 | 京都府南丹保健所 保健室 副室長 | 副委員長 |
| | 9 | 亀岡市こども未来課 課長 | |
| | 10 | 亀岡市自治防災課 課長 | |

3

データに基づく客観的課題 乳幼児(0~4歳)の外傷受傷場所は 1番住宅、2番保育所等の順に多い

図表1 亀岡市内における乳幼児(0~4歳)の外傷場所



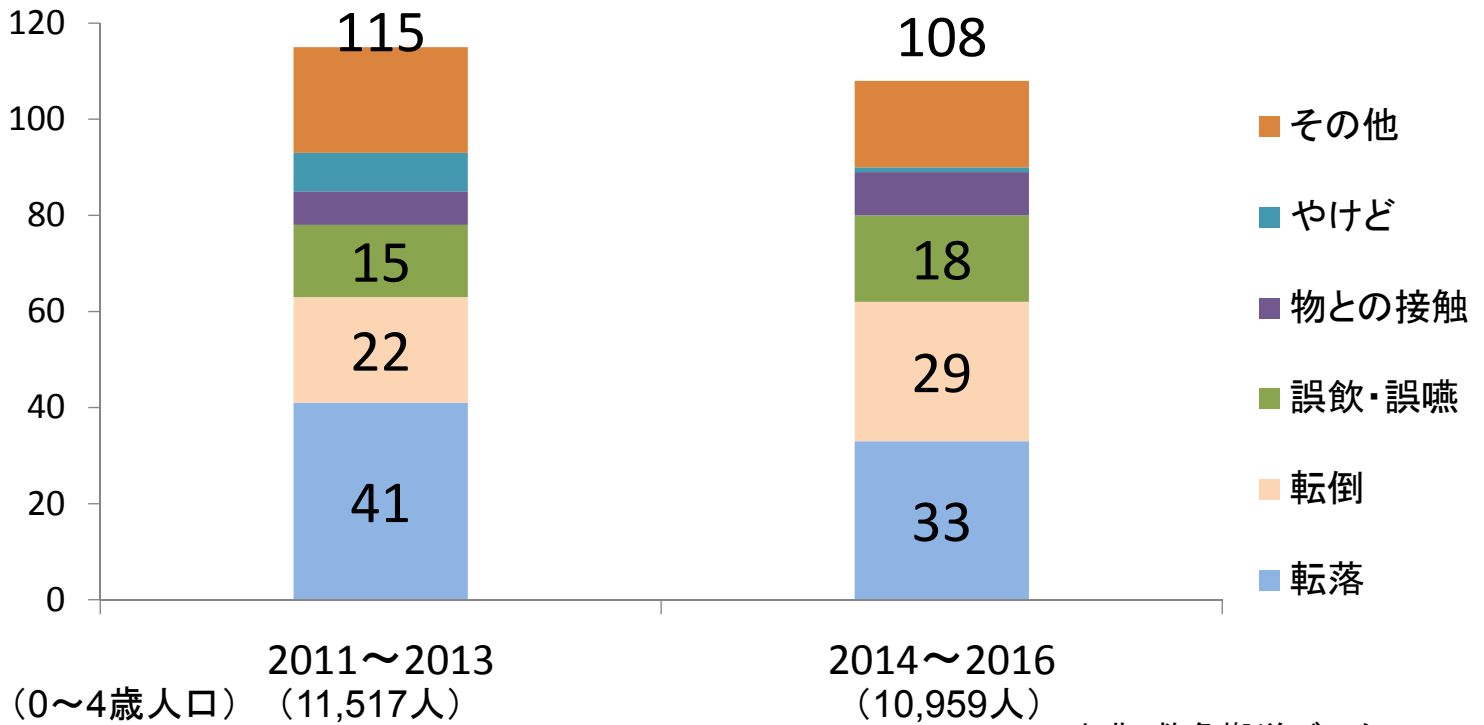
出典：外傷発生動向調査 2007年

4

データに基づく客観的課題

乳幼児の住宅での受傷原因は①転落 ②転倒 ③誤飲・誤嚥 ④物との接触⑤やけどの順に多い

(件) 図表2 亀岡市内の乳幼児(0~4歳)の住宅での外傷受傷原因(3年間の合計)

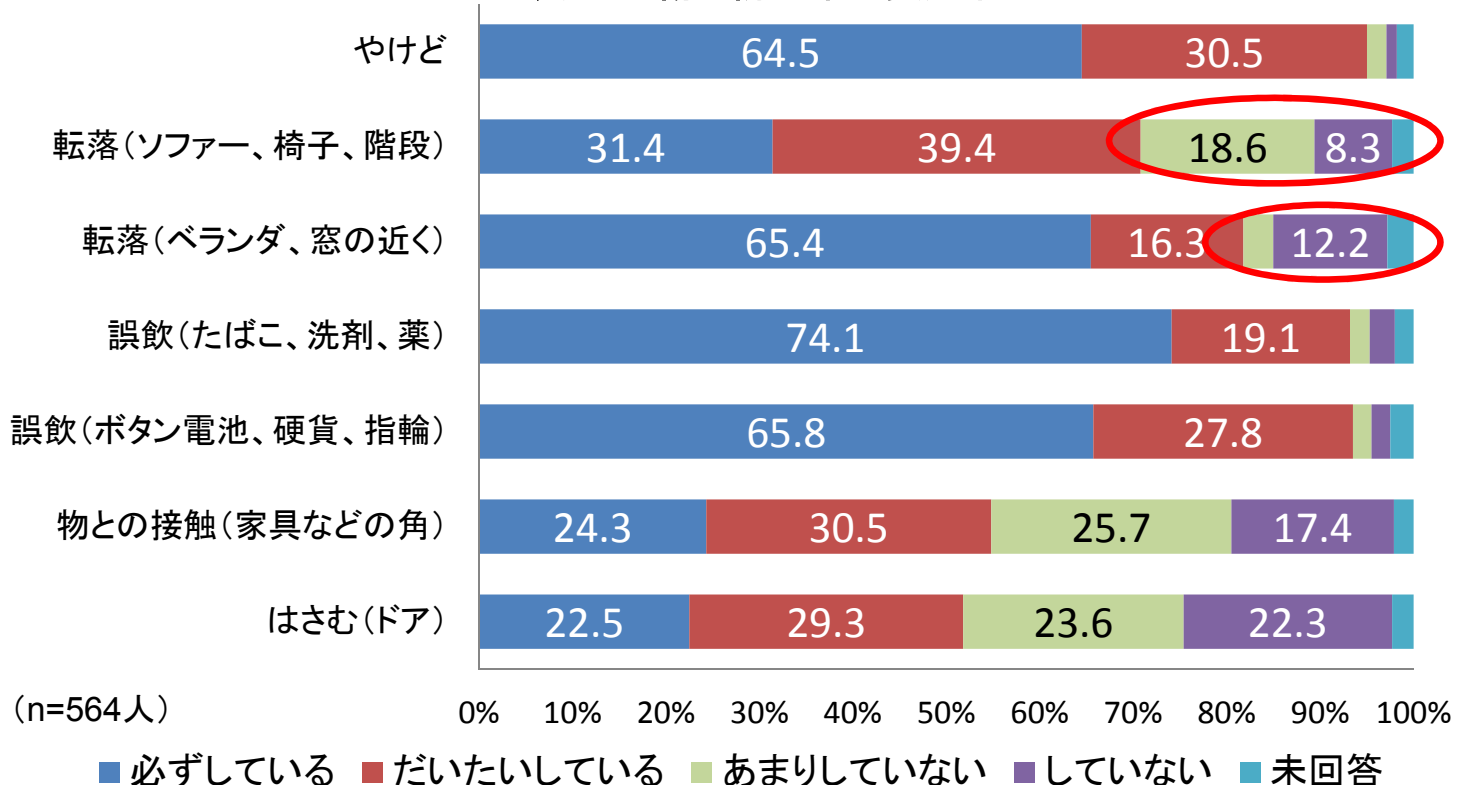


出典: 救急搬送データ

データに基づく客観的課題

予防対策を(あまり)していない乳幼児の保護者は20%

図表3 外傷予防対策の実施率



(n=564人)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

■ 必ずしている ■ だいたいしている ■ あまりしていない ■ していない ■ 未回答

出典: 亀岡市保健センター 乳幼児健診アンケート(2015)

主観的・客観的課題の整理

| データに基づくもの | 経験に基づくもの |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の外傷受傷場所は、1番住宅、2番保育所等の順に多い。(図表1) ・乳幼児の受傷原因は、①転落②転倒③誤飲・誤嚥④物との接触⑤やけどの順に多い。(図表2) ・予防対策を(あまり)していない乳幼児の保護者は20%(図表3) | <ul style="list-style-type: none"> ・やけどは傷跡が残り続ける。 ・溺水は重症化する。 ・乳幼児の筋力、バランス感覚は未熟で転倒しやすい。 ・乳幼児には、発達特性があり、見通しがもちにくい。 |



重点課題の設定

課題解決のための方向性と対策

| 課 題 | 方 向 性 | 対 策 |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の外傷受傷場所は住宅が1番多い。 ・乳幼児の受傷原因は転落、転倒、誤飲・誤嚥、物との接触、やけどの順に多い。 ・予防対策をしていない乳幼児の保護者が約20%いる。 ・やけどは傷跡が残り続ける。 ・溺水は重症化する。 ・乳幼児には、発達特性があり、見通しがもちにくい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児保護者の外傷防止に対する意識の向上 ・住宅内における転落・転倒など頻度の高い事故への安全対策 ・やけどや溺水など重症化しやすい事故への安全対策 ・乳幼児の発達特性を理解し、成長を見通した安全対策 | <ul style="list-style-type: none"> ① 乳幼児保護者向け安全教育プログラム(継続) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の筋力、バランス感覚は未熟で転倒しやすい。 | <ul style="list-style-type: none"> 園児の筋力、バランス感覚の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ② 運動あそびプログラム(継続) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の外傷受傷場所は2番目に保育所等が多い | <ul style="list-style-type: none"> 保育所の環境改善 | <ul style="list-style-type: none"> ③ 乳幼児安全安心プログラム(継続) |

レベル別の対策

別添資料を
御覧ください

9

プログラムの運営状況

| | 進行状況 | | | | 計画(予定) | |
|-----------------------|------|------|------|------|--------|------|
| | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 |
| 乳幼児保護者向け安全教育プログラム(継続) | | 継続 | | | | |
| 運動あそびプログラム(継続) | | 継続 | | | | |
| 乳幼児安全安心プログラム(継続) | | 継続 | | | | |

2016年からセーフスクールへ移行

10

セーフスクールの取り組み

●2013年9月 ISS取組宣言

●2015年10月 ISS認証取得

亀岡市立8保育所・亀岡あゆみ保育園が活動

対策委員会は
バックアップ！



亀岡あゆみ保育園



亀岡市立8保育所

①乳幼児保護者向け安全教育プログラム

| | | |
|------------------------|-----------------------------------|--|
| 課 題 | 乳幼児の住宅での事故が多い | |
| 目 標 | 住宅での乳幼児の外傷を減少させる。 | |
| 内容等 | 【内容】 | 市保健センターの乳幼児4カ月健診や、市内各地の乳幼児の保護者が集まる場で外傷予防講習を実施し、家庭での外傷予防活動を呼びかける。 |
| | 【対象】 | 乳幼児の保護者 |
| (短・中期) 態度や行動の 変化 | 【指標】 外傷予防等に関する保護者の認知度、外傷予防の実施率 | 【測定】 安全教育プログラム受講率、定期健診時のアンケート調査 |
| (長期) 状態や状況の 変化 | 【指標】 乳幼児の家庭での受傷件数、受傷率 | 【測定】 定期健診時の問診票、救急搬送データ |

乳幼児保護者向け安全教育プログラムの活動状況

啓発ポスターを作成

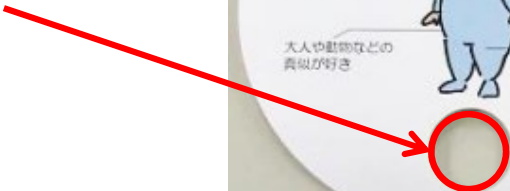


13

乳幼児保護者向け安全教育プログラムの活動状況

啓発パンフレットを作成

3歳児の口の大きさ



14

【パンフレット掲載内容】

救急搬送のデータから

転落、誤飲・誤嚥、物との接触、
やけど

対策委員の経験による意見から

溺れる、やけど

15

乳幼児保護者向け安全教育プログラムの活動状況
女学生がデザイン → 若いお母さんにも親しみやすい



16

乳幼児保護者向け安全教育プログラムの活動状況



2017年5月 京都新聞に掲載

17

乳幼児保護者向け安全教育プログラムの活動状況 〔4ヵ月健診時に保護者に啓発〕



18

乳幼児保護者向け安全教育プログラムの活動状況 〔 委員自らが出前講座を実施 〕



19

乳幼児保護者向け安全教育プログラムの活動状況 〔 委員が出向いて市内各商業施設に啓発ポスターを配布 〕



20

プログラムの活動実績

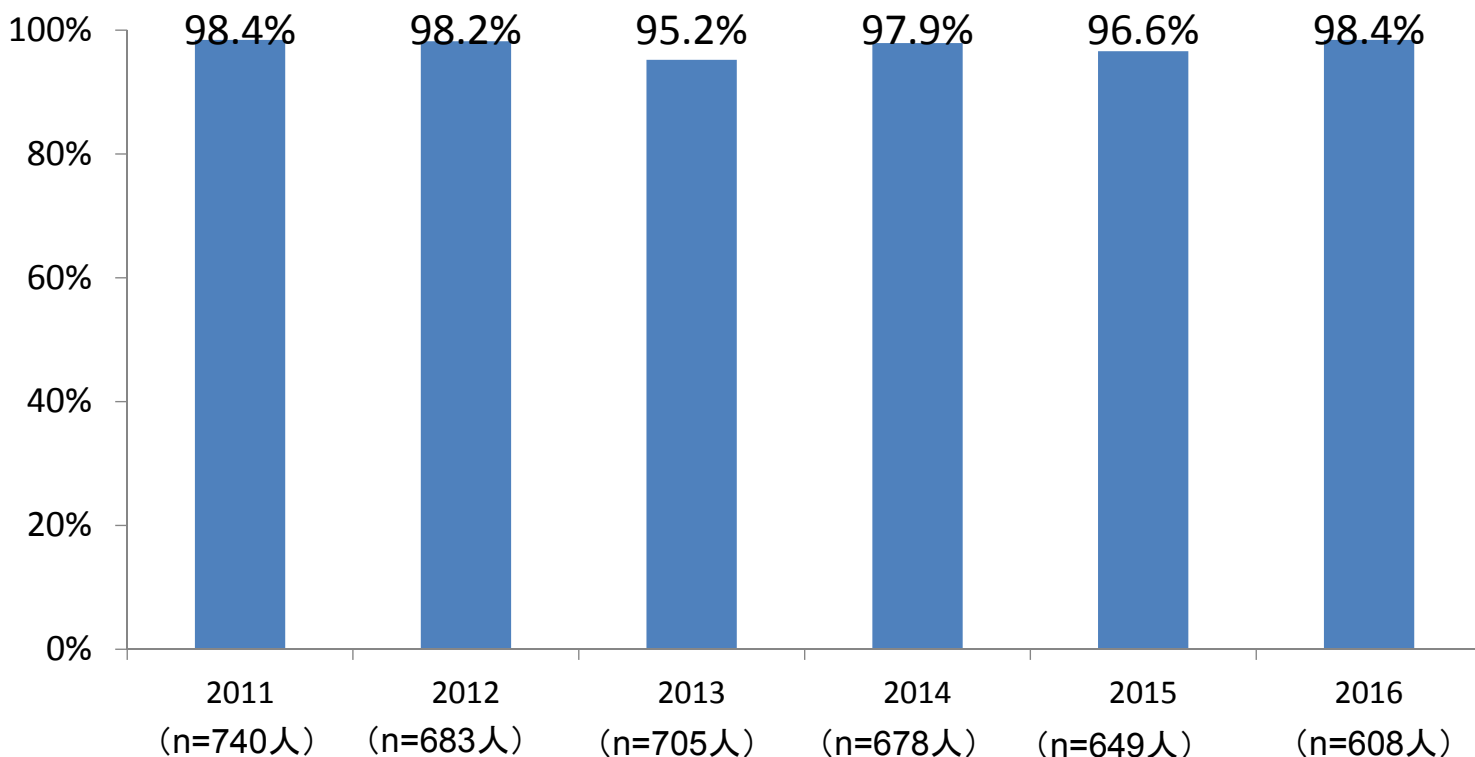
| 実績と今後の予定 | 実績 | | | | 対策委員会の関わり | 工夫点 |
|---------------------------------|--|---------------|---------------|---------------|---|---|
| | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | | |
| 乳幼児健診時の安全教育 | 23回 671人参加 | 24回 664人参加 | 23回 627人参加 | 18回 664人参加 | <ul style="list-style-type: none"> ●健診時に実施するアンケート調査票の作成 ●パンフレット、ポスターの作成 ●委員自らがパンフレットを用いて出前講座を実施 ●店舗等へのポスター配布による啓発 | <ul style="list-style-type: none"> ★2017年度から啓発パンフレットの内容に沿って、アンケート内容を修正した。 ★京都女子大学生と協働し、インパクトがあり、親しみやすいデザインとした。 ★地域に出向いて保護者に直接説明。 |
| 啓発パンフレットを用いた安全教育及び住民向けポスター配布や回覧 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">継続</div> → <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 100px;">検討・作成</div> → | | | | | |

21

プログラム評価結果(短期)

「毎年ほぼ全ての世帯が乳幼児健診を受講している」

図表4 乳幼児保護者向け安全教育プログラム受講率(乳幼児4ヶ月健診時に実施)



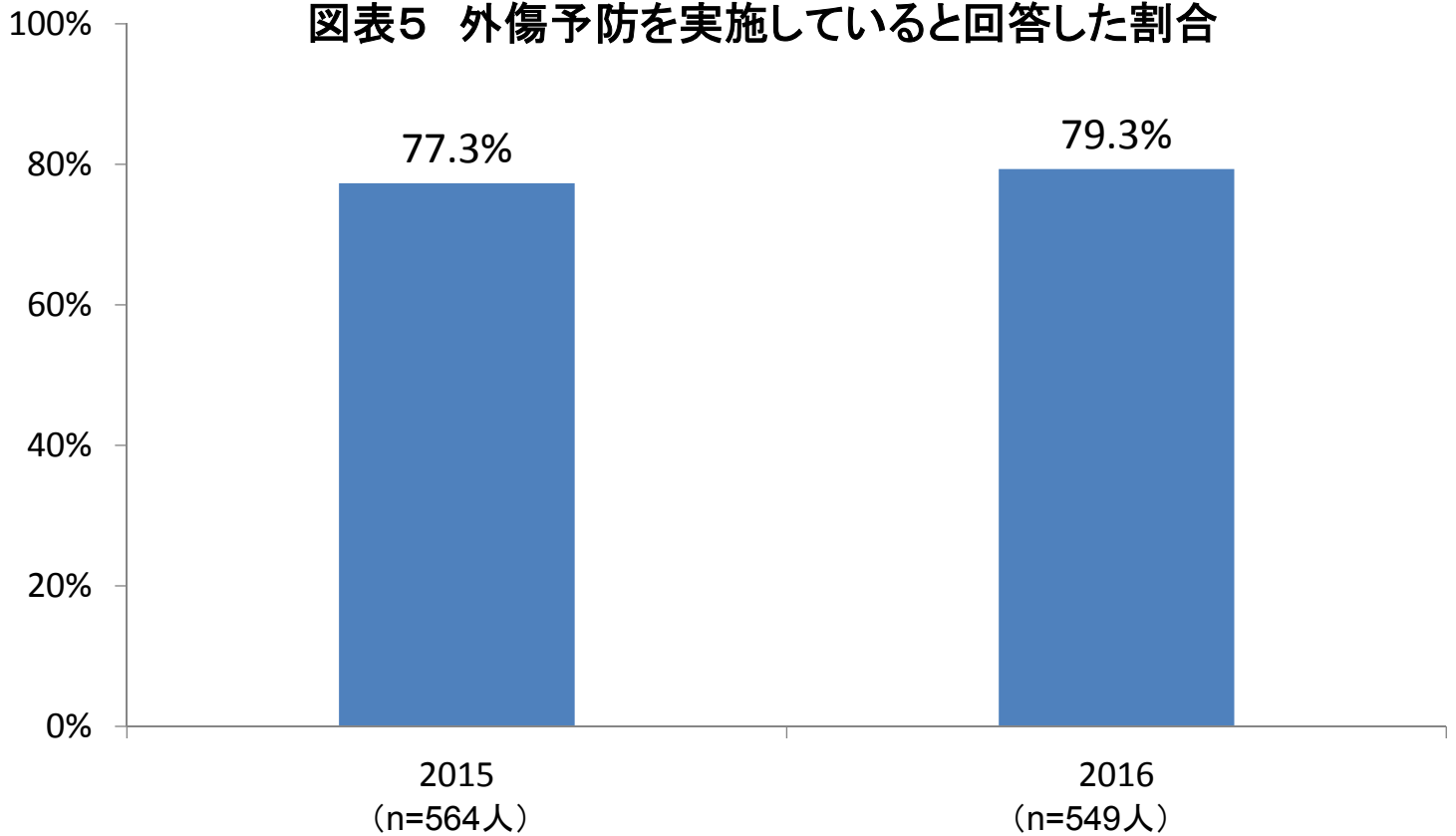
出典: 亀岡市保健センター 乳幼児4ヶ月健診アンケート

22

プログラム評価結果（中期）

「約8割の保護者が外傷予防を実施している」

図表5 外傷予防を実施していると回答した割合

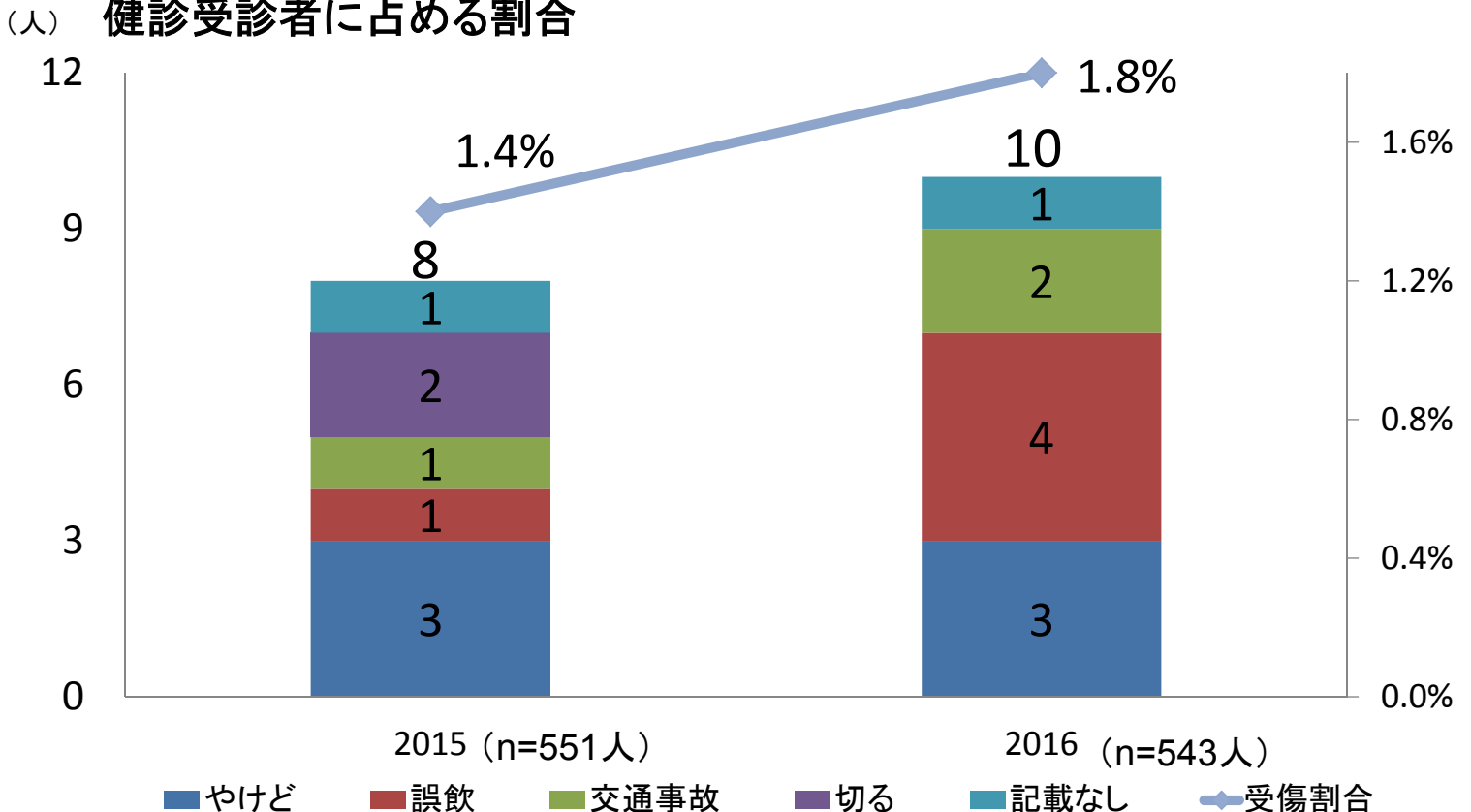


出典：亀岡市保健センター 乳幼児11ヶ月健診アンケート

プログラム評価結果（長期）

図表6

11ヵ月健診時に「事故・ケガがあつて病院を受診した」と回答した人数と健診受診者に占める割合



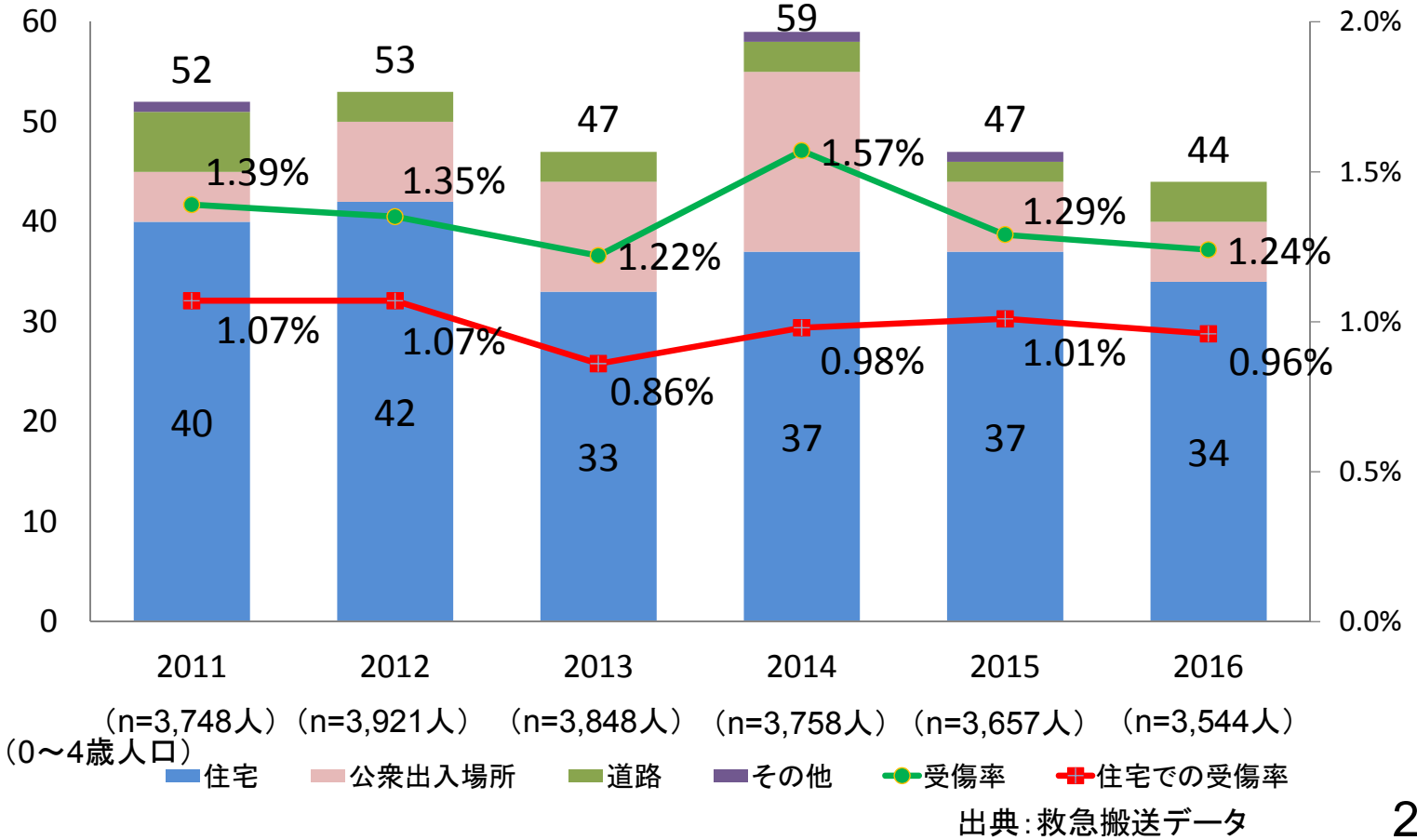
出典：亀岡市保健センター 乳幼児11ヶ月健診アンケート

取組成果の検証

「救急搬送人数は減少傾向にあるが、住宅内での受傷率は横ばい」

(件)

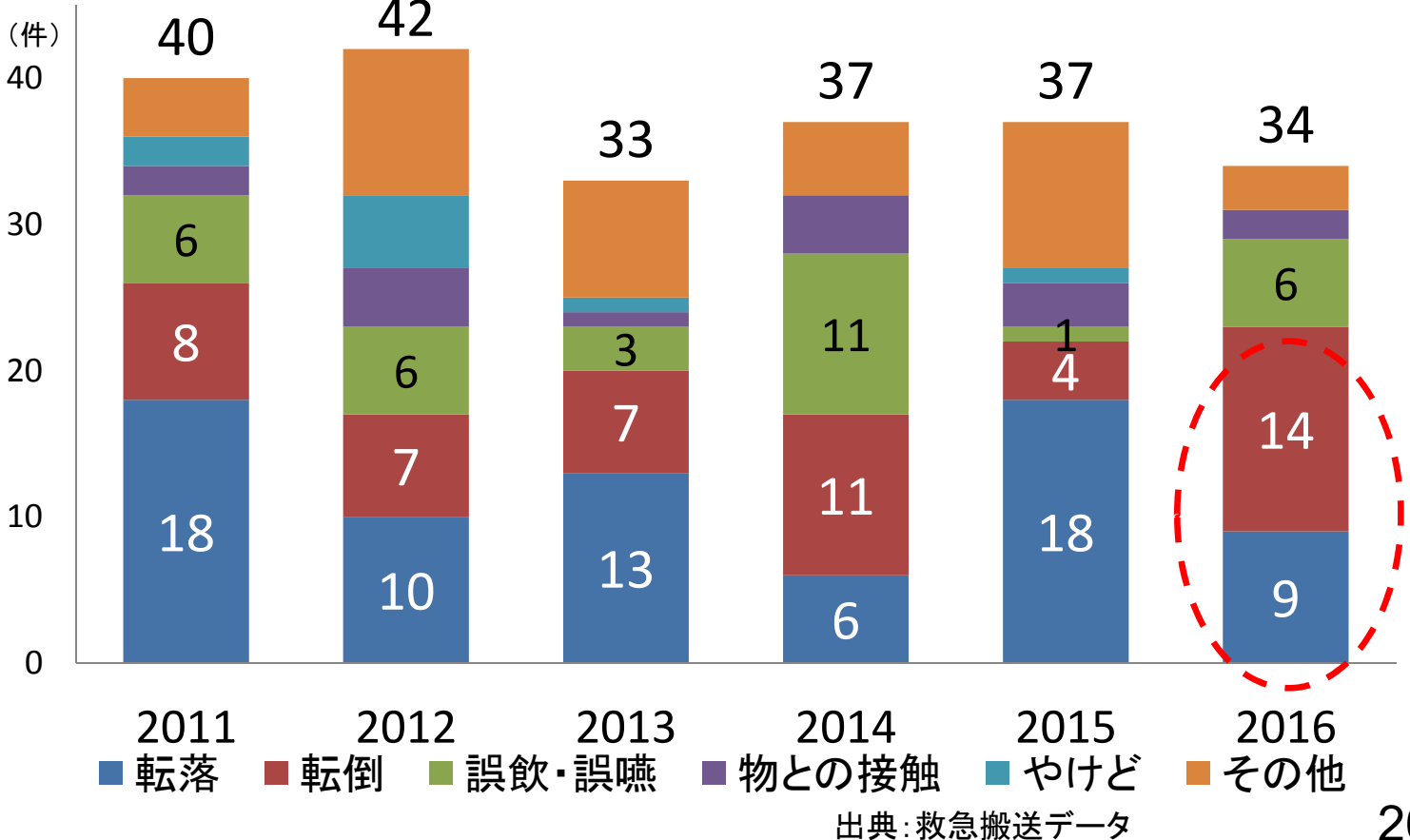
図表7 乳幼児(0~4歳)の救急搬送人数と受傷率



取組成果の検証

「住宅での転倒・転落は横ばい」

図表8 乳幼児(0~4歳)の住宅における外傷受傷原因



気づきや変化

- 委員自らが各所属団体での活動や様々な機会において、パンフレットを活用した啓発活動を行うようになった。
- 2015年に委員長が行政職から市民団体職に代わり、今まで以上に市民目線の取組ができるようになった。

27

今後の課題

- やけどや誤飲に比べて転落対策をしている保護者が少ない。
- 保護者が誤飲対策をしている割合は高いが、事故は減っていない。

28

2018

2019

2020

2021

2022

2023

プログラム①

継続 乳幼児健診時安全教育の実施

拡大 ・パンフレットを活用した幅広い
情報提供及び啓発
・発達段階に応じた啓発強化